

県立山田病院の診療所化 反対署名に町民12,616人

診療体制の充実求め県に要望 計画見直され地域総合病院に

昨年十一月に「県立病院改革基本プラン(案)」が発表され、県立山田病院の診療所化を心配する声が上がりました。町や議会、町内福祉関連三団体では、同計画(案)の見直しを求め、署名活動などを展開。一月十九日、集まった一万二千六百十六人の署名を持って、県や県医療局などに対して要望を行いました。席上、県医療局から県立山田病院は診療所化せずに従来の医療機能を持つ「地域総合病院」とする案に修正されたことを確認しました。



県議会に対しての要望する町、議会、福祉関連3団体の代表(写真下)／県医療局に町内から集まった12,616人分の署名を提出しました(丸写真)

昨年十一月に県立病院の経営改善策として、県医療局から「県立病院改革基本プラン(案)」が発表されたのを受け、新たな施設類型として県立山田病院のサテライト化(診療所化を含む)を心配する声が上がりました。町では、現在の県立山田病院の機能を維持し、診療体制の充実を要望するため、いち早く佐々木俊夫県議会議員と一緒に県医療局に対し計画(案)の見直しを強く要望しました。議会でも昨年の十二月議会の初日に、この案の見直しを求める意見書を採択するなど、町の極めて重要な問題として活発な反対活動が展開されました。

このようなかで、町社会福祉協議会、町老人クラブ連合会、町婦人団体協議会の町内福祉関連三団体が危機感をもって、この計画阻止に向けて町内全戸に対する署名活動を展開しました。署名は年末の繁忙期にもかかわらず、およそ二週間の間に一万二千六百十六人の署名が集まりました。また、議会でも議員自らが町内の各種団体や企業を回り八百五十人の署名を集めるなど、この問題に対する町民の関心の高さが示されました。一月十九日、これらの署名を持って県知事、県医療局長、県議会議長などに対し、沼崎喜一町長、佐々木良一議長をはじめ町議会議員、福祉関連三団体の代表らが要望活動を行いました。要望の席上、県医療局から県立山田病院については、従来どおりの医療機能を持つ「地域総合病院」とする案に修正されたことを確認しました。これにより病床数の縮小は今後の課題として残されたものの、診療所化という心配は無くなりました。ご協力いただいた町民の皆さん、ありがとうございました。

町長室から

「県立病院改革基本プラン(案)」で示された山田病院のサテライト構想に対して、町、議会、福祉関係団体が一丸となって署名活動や要望行動などを行い、見直しを求めてきたところですが、本誌記事のように修正案が示され一定の前進が図られることになりました。ご協力いただいた皆さんに心から感謝申し上げます。

一方、「岩手県行財政構造改革プログラム」の中で県単独補助金などの大幅見直しが見込まれていますが、これによれば産業振興、保健福祉、生活基盤整備、環境、教育など、町民生活に大きな影響が出るようになります。一月二十二日に開催された「県政に関する県と市町村との意見交換会」では、各市町村長から慎重な配慮を求める声が多く出されました。長引く不況の中で税収が落ち込み、国・県・町とも厳しい財政難に見舞われています。早期の景気回復が望まれます。

山田町長 沼崎喜一